

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番



Health

ADVICE



シミがあり気になっていました。徐々に目立つようになってきました。
シミはどのような治療方法がありますか？ (50歳・女性)

シミとはメラノサイトという細胞でつくられた色素『メラニン』が表皮にたまり現れるものですが、その原因、症状により主に次の①から④に分類され、シミの種類により治療方法も異なります。

①日光性黒子

日光性黒子(老人性色素斑)は最も一般的なシミです。これは加齢に伴う皮膚のターンオーバー低下により、メラニン色素が排出されずに蓄積することで徐々に濃くなります。シミの境界がはっきりしていて、色調も均一です。紫外線の影響が大きく、日焼けしやすい頬や手などにできやすいのが特徴です。比較的治療しやすいシミで、レーザー治療が有効です。

②肝斑

肝斑は、主に女性ホルモンの乱れによって生じるシミです。境界がはっきりしない薄茶色のシミが頬骨の高い部分に生じることが多く、30歳代から50歳代の女性にできやすいのが特徴です。妊娠中や出産後、ピル服用、閉経時(更年期)に入り生じることがあります。ホルモンバランスが崩れることでメラニン生成を促進しシミができることがあります。難治性のシミで治療には時間がかかります。内服薬と低出力レーザー治療(トーニング)、ピーリングなどの併用が有効です。

③炎症後色素沈着

炎症後色素沈着は、ニキビや

④雀卵斑(そばかす)

雀卵斑(そばかす)は鼻部を中心に点状の褐色斑が分布します。遺伝的な要因で発生し、幼少期から存在し、思春期頃に濃くなること多いです。紫外線で悪化することがあります。レーザー治療や光治療が有効です。

まとめ

有効なレーザー機器や外用薬

くらで病院では①から④のシミの治療が可能なレーザー機器をご用意しております。シミでお困りの場合はぜひ皮膚・形成外科までご相談ください。



【アドバイザー】

三宅伸完・みやけただひろ・平成18年産業医科大学医学部卒業。熊本労災病院、金沢医科大学病院、産業医科大学病院等での勤務を経て、平成29年4月よりくらで病院皮膚・形成外科勤務。日本形成外科学会専門医。



などができ、シミの治療は進歩しましたが、日焼けのケアは必要です。シミと違っていても、実際は外科的切除が必要な皮膚腫瘍がかくれていることもあります。